

隔月発行
発行所
平塚市役所
平塚市平塚新街1.195番地
電話1261~1268番
印刷所 井上印刷所 電話773番

第四十一號

平塚市弘報

平塚市の人口と世帯数

昭和30年1月1日現在

(推計人口)

人口 66,181人

世帯数 14,251世帯

前月に比して(189人)増加
(40世帯)

平塚市財政事情

平塚市告示才六十一号

「財政事情の作成及び公表に関する条例」
の定めるところにより平塚市財政事情を
ここに公表する

昭和二十九年十一月一日

平塚市長 柿澤篤太郎

目次

- 一、まえがき
- 二、収入及び支出の概況
- (一) 一般会計分
- (二) 特別会計分
- 三、住民負担の概況
- 四、財産公債及び一時借入金現在高
- 五、むすび
- 一、まえがき

二、収入及び支出の概況

(一) 一般会計分

(4) 昭和二十八年年度決算の概況

この年度に於ては三月末まで円対し、歳入は前年度に比し四、五、の増、歳出は前年度に比し一、〇七、三七、九三、七四、で予算総額に比し九三、

の支出状況であります。

一方の財源に於ては、歳入決算額は四、三、〇、七、七、千円、予算総額に比し八八、八、の収入状況に五、五、〇、三、千円の減収となり歳出入決算額計二、九、〇、〇、千円の歳入不足であります。

これが昭和二十八年年度におきまして本市財政状況の概況であります。戦後昭和二十七年年度までは本市は県下有数の健全財政を堅持し、財政に専らに都市として他都市より重税のまことであったものであります。かような状況に於て本市が昭和二十八年年度において通過の如き赤字を生じたと言つては、一、二、三、と原因の多きものと市民の皆さんは種々疑問があらはれ、と存じます。

現在全国の各都市もその殆どが大小の赤字とある数字財政に陥つてゐる中、それと過言ではないと思つてあります。その原因については人件費、戦災復興費、学校施設費等の増加、公共事業費に対する国庫補助額の減少による公共事業費の増大、国庫事業に対する負担金の増額等々、色々と言つておられるのであります。さて本市の赤字はそれでは、一体なんに起因して生じたかを皆さんと共に、各項に亘り検討し、併せて昭和二十八年年度の本市財政の運営状況を御覧下さい。皆さんの良識ある御判断をお願いいたします。

次に(表一、二)により数字に分析説明いたします。

(表 1)

歳

入

款	予 算 額 (A)	調 定 額 (B)	収入済額 (C)	予算に対する差 引当不足(△)額	比 分		
					A	B	C
市 税	161,732	168,648	142,576	△ 19,166	88	85	34
地方財政平衡交付金	31,415	31,425	31,425	0	100	100	7
使用料及び手数料	23,475	24,841	24,728	1,253	105	100	6
国庫支出金	65,057	60,782	60,782	△ 4,275	93	100	14
果 支 出	14,592	14,932	14,952	340	102	100	4
寄 附 金	42	32	32	△ 10	76	100	0
繰 越 金	1,582	1,582	1,582	0	100	100	0
繰 入 金	112,862	97,503	97,503	△ 15,359	86	100	23
雑 収	7,705	9,996	9,977	2,172	128	99	2
雑 入 債	62,600	39,600	39,600	△ 23,000	63	100	10
歳 入 合 計	481,072	449,341	423,037	△ 58,035	88	94	100

(表 2)

歳

出

款	予 算 額	予備費補充額	予算残額 (A)	支出済額 (B)	不 用 額	百 分 比	
						A	B
議 会 費	11,546	—	11,546	11,546	0	100	3
役 所 費	60,785	—	60,785	59,148	1,637	97	18
警 察 費	44,909	—	44,909	44,303	606	99	10
土 木 費	8,551	—	8,551	8,484	67	99	2
教 育 費	150,544	23	150,567	149,155	1,412	99	33
社会及び労働施設費	96,122	—	96,122	91,217	4,905	95	20
保健衛生費	19,048	4	19,052	3,960	15,092	21	1
産業経費	10,732	—	10,732	2,600	8,132	24	1
都市計画事業費	35,417	371	35,788	35,788	0	100	8
財産調査費	2,927	—	2,927	2,883	44	99	1
統計調査費	728	—	728	711	17	98	0
通 信 費	1,689	—	1,689	1,297	392	77	0
公 債 費	13,414	1	13,415	13,079	336	98	3
国有財産関係費	1,656	—	1,656	1,603	53	97	0
競 輪 費	10,039	—	10,039	8,424	1,615	84	2
諸 支 出	12,465	16	12,481	11,725	756	94	3
予 備 費	500	△ 482	18	—	18	0	0
歳 出 合 計	481,072	0	481,072	445,937	35,135	93	100

歳入歳出差引不 22,900千円

このため翌年度歳入繰上充用金 22,900千円で歳入不足を補填した

地方財政平衡交付金
予算額一、四、五、五、千円、収入済額は三、四、三、千円、千円の増収あります。

使用料及び手数料
予算額三、四、五、千円、収入済額は二、五、三、千円、千円の増収あります。

国庫支出金
予算額六、五、〇、七、千円、収入済額は六、〇、七、千円、千円の増収あります。

繰越金
予算額一、五、八、三、千円、収入済額は一、五、八、三、千円、千円の増収あります。

繰入金
予算額一、五、八、三、千円、収入済額は一、五、八、三、千円、千円の増収あります。

雑収入
予算額七、七、五、千円、収入済額は七、七、五、千円、千円の増収あります。

雑入債
予算額一、五、八、三、千円、収入済額は一、五、八、三、千円、千円の増収あります。

議 会 費
予算額一、五、八、三、千円、収入済額は一、五、八、三、千円、千円の増収あります。

役 所 費
予算額一、五、八、三、千円、収入済額は一、五、八、三、千円、千円の増収あります。

市 税

予算額一、六、一、七、三、千円、収入済額は一、四、二、五、七、千円、千円の増収あります。

地方財政平衡交付金

予算額一、四、五、五、千円、収入済額は三、四、三、千円、千円の増収あります。

使用料及び手数料

予算額三、四、五、千円、収入済額は二、五、三、千円、千円の増収あります。

国庫支出金

予算額六、五、〇、七、千円、収入済額は六、〇、七、千円、千円の増収あります。

繰越金

予算額一、五、八、三、千円、収入済額は一、五、八、三、千円、千円の増収あります。

繰入金

予算額一、五、八、三、千円、収入済額は一、五、八、三、千円、千円の増収あります。

雑収入

予算額七、七、五、千円、収入済額は七、七、五、千円、千円の増収あります。

雑入債

予算額一、五、八、三、千円、収入済額は一、五、八、三、千円、千円の増収あります。

議 会 費

予算額一、五、八、三、千円、収入済額は一、五、八、三、千円、千円の増収あります。

役 所 費

予算額一、五、八、三、千円、収入済額は一、五、八、三、千円、千円の増収あります。

一時借入金現在高

本市の昭和二十九年九月末の財産表は（表19・20）のとおりであります。

(表 19)

② 公債

(表 20)

1161

(表 21)

費 用	左 の 借 入 先 別 内 訳					
	負 債 額 9 月 末	大 蔵 省	郵 政 省	神 奈 川 縣	市 中 銀 行	合 計
	千円	千円	千円	千円	千円	千円
教 育 費	50.855	22.436	222	197	28.000	50.855
産 業 経 済 費	4.151	4.151	—	—	—	4.151
社会及び労働施設費	26.494	14.194	8.300	—	4.000	26.494
災 害 復 旧 費	10.814	10.806	—	8	—	10.814
戦 災 復 旧 費	48.473	43.873	4.600	—	—	48.473
企 業 費 (競輪)	25.030	—	—	—	25.000	25.000
合 計	165.787	95.460	13.122	205	57.000	165.787

昭和29年度旭村歳入歳出決算總括表

歲

款	予算額(A)	調定額(B)	収入落額(C) 自4月1日 至7月14日	予算に対する 差引過不足(D)額	百 分 比		
					C/A	C/B	C/D
村地公使国果寄繰雑繰村	7.359	3.294	2.153	△ 5.206	29	65	48
方交付税	1.950	321	321	△ 1.629	16	100	0
営業及び財産	6	2	2	△ 4	30	100	7
常用料庫	166	46	46	△ 120	3	100	1
支出	2,811	—	—	△ 2,811	—	—	—
支	308	7	7	△ 301	2	100	0
附越收入	1	—	—	△ 1	—	—	—
金	335	335	335	△ 0	100	100	0
金	173	12	12	△ 119	9	100	0
金	173	173	173	△ 0	100	100	0
金償	1.750	1.500	1.500	△ 250	86	100	33
歳入合計	14.990	5.690	4.549(D)	△10.441	30	80	100

第

款	予 算 額	予 備 充 費 額	予 算 現 額 (A)	支出積額(B)		不 用 額	百 分 比	
				自4月 至7月14日	千円		千円	B/A
	千円		千円		千円			
議役警士教金保險庫財統選公諸子	498	—	498	326	172	65	7	
會場消 防 費	3,060	—	3,060	952	2,108	19	21	
察 察 費	350	—	350	75	275	21	2	
不 育 費	737	—	737	163	574	22	4	
勞 働 費	3,280	—	3,280	998	2,282	30	22	
力 施 費	3,438	—	3,438	3,272	166	5	4	
生 活 費	289	—	289	106	183	37	2	
費 費	1,541	—	1,541	334	1,207	22	8	
興 費	8	—	8	—	8	—	—	
費 費	36	—	36	6	30	17	0	
費 費	19	—	19	—	19	—	—	
費 費	54	—	54	10	44	19	0	
費 費	20	—	20	9	11	45	0	
費 費	1,650	—	1,650	1,342	308	81	30	
費 費	10	—	10	—	10	—	—	
歲 出 合 計	14,990	—	14,990	4,487(C)	10,503	30	100	

歳入歳出差引残額62千円平塚市へ引繼

五
む
す
び

市民の窮乏に市をあつたが爲め、共は、健康救済を確立した。財政運営あらゆる財源を市公債字借換の努力にておこなふが、これと皆さしの賜なくしては到底再延是不可能となめてります。どうか建物の一築もつて市石、財政運営、深い御理解と御協力をお願いし、第三回目的の平準化設備事情を結ぶことにいたします。

なお本年七月十五日本市と合併いたしまして旧旭の昭和二十九年年度一般計及び特別会計決算状況(四月一日から月十四日まで)を附録としてお知らせいたします。(第23—26頁参照)